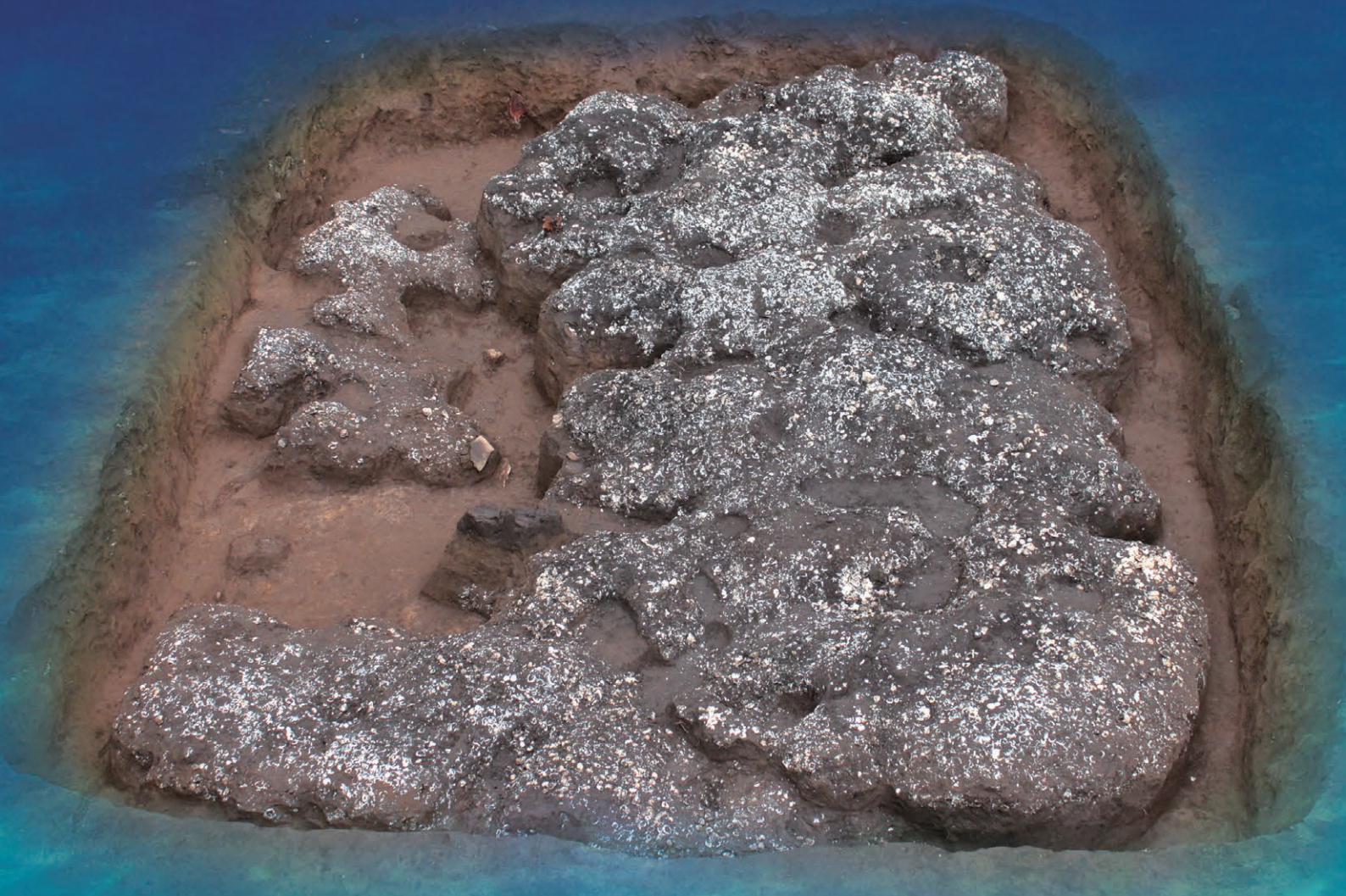


まいぶん SAITAMA 埼玉の縄文時代

埼玉県の遺跡と出土品の情報誌

No. 59



特集

縄文時代前期の貝塚

—埼玉に海があった時代—

さいたま発掘情報 (2015年1月～12月)

平成27年度文化財収蔵施設 新収蔵資料

まいぶん探訪 鴻巣市文化センター歴史民俗資料コーナー

監修／発行 埼玉県教育委員会
企画／編集 公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団

表紙：蓮田市 黒浜貝塚（縄文時代前期）貝層検出状況

縄文時代前期の貝塚

— 埼玉に海があった時代 —

約6,000年前の縄文時代前期前半には、早期から続く地球温暖化により平均気温が現在より2℃上昇したため、海水面も現在より3～4mほど上昇しました。これを「縄文海進」と呼んでいます。縄文海進期には埼玉県域にも海が入り込んでおり、最奥部は栃木県の渡良瀬遊水地周辺まで及んでいました。大宮台地東側の中川低地の海は奥東京湾、西側の荒川低地の海は古入間湾と呼ばれています。中間に挟まれた大宮台地には小さな谷が刻まれ、そこにも海が入り込んでいました。

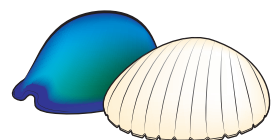
縄文人たちが干潟に生息する貝類や魚類など、豊富な海産資源を利用した生業を営むようになると、奥東京湾や古入間湾に面した台地上には多くの貝塚が残されました。埼玉県内ではここ数年、相次いで貝塚の発掘調査が行われています。ここではそれらの調査成果を中心に、埼玉に海があった時代について見ていきます。



富士見市 (国指定史跡) 水子貝塚

荒川低地に面した武蔵野台地の先端に立地しており、古入間湾の湾奥に位置しています。明治時代には発見されていた遺跡で、1969年に国指定史跡に指定されました。

1990～1992年に史跡整備事業に伴う発掘調査が行われ、第15号住居跡から前期中葉黒浜式期の住居内貝層が検出されました。貝層の下から人骨が出土しており、丁寧に埋葬されたものと考えられます。貝の種類はヤマトシジミ主体で、マガキ、ハマグリなどを伴っています。



公園全景



第15号住居跡全景



第15号住居跡貝層



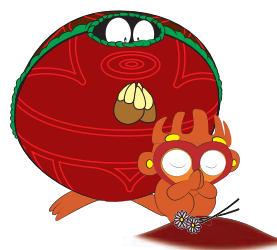
第15号住居跡の貝層と人骨

調査機関：富士見市教育委員会

蓮田市 (国指定史跡) 黒浜貝塚

元荒川に面した大宮台地上に立地しており、奥東京湾の湾奥（元荒川支谷）に位置しています。前期中葉「黒浜式土器」の標式遺跡であり、2006年に国指定史跡に指定されました。

2015年に4号住居跡の調査を行ったところ、前期前葉関山式期の住居内貝層が検出されました。貝の種類はハイガイ主体で、魚の骨（スズキ、コチ、エイ、カレイ）も出土しています。貝層の下から犬の骨が出土しており、丁寧に埋葬されていたのかもしれません。



遺跡全景



4号住居跡貝層

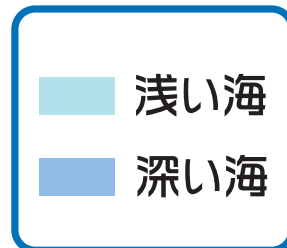
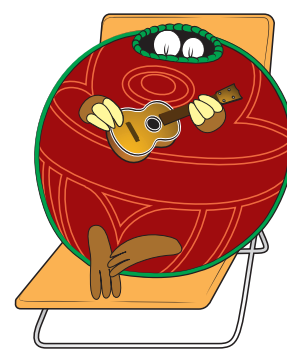


スズキの骨

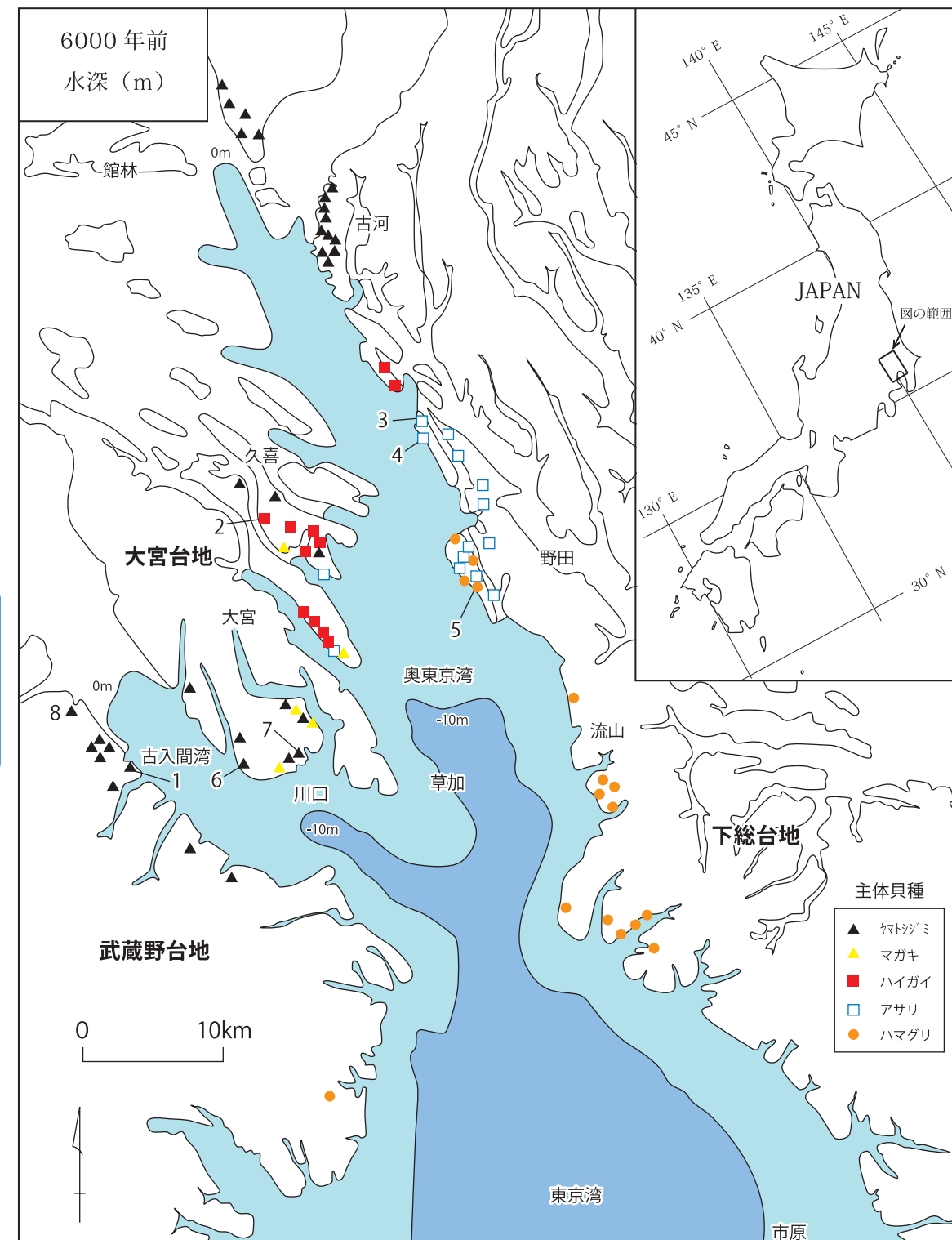


犬のアゴの骨

調査機関：蓮田市教育委員会



- 1 みずこ 水子貝塚
- 2 くろはま 黒浜貝塚
- 3 まきのじきた 榎野地北遺跡
- 4 きづうち 木津内貝塚
- 5 みなみだい 南台遺跡
- 6 そばがいと 側ヶ谷戸貝塚
- 7 だいたくぼ 太田窪貝塚
- 8 かみふくおか 上福岡貝塚



関山・黒浜式期における奥東京湾の貝塚分布

まきのじきたいせき
幸手市 榎野地北遺跡

中川低地に面した下総台地の先端に立地しますが、当時は奥東京湾の湾奥部になります。2013・2014年の調査では、前期中葉黒浜式期の住居内貝層が発見されました。

貝の種類はアサリ主体で、ハマグリ・サルボウ・ハイガイ・シオフキ・マガキ・アカニシなどを伴っています。



住居跡に捨てられた大量の貝

調査機関：（公財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団

みなみだいいせき
春日部市 南台遺跡

榎野地北遺跡と同じく、中川低地に面した下総台地の先端に立地しています。2014年の調査では、前期中葉黒浜式期の住居内貝層が発見されました。

周辺の貝塚群の多くはアサリ主体ですが、南台遺跡はハマグリ主体でした。春日部市域ではアサリ主体の前期の自然貝層が知られていることから、南台遺跡近くの海岸ではハマグリが採れなかった可能性が高いようです。南台遺跡の人々は交易によってハマグリを手に入れたか、ハマグリが生息している海岸まで取りに行っていたと考えられます。



貝層を伴う住居跡

調査機関：（公財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団

そばがいかいづか
さいたま市 側ヶ谷戸貝塚

荒川低地に面した大宮台地の先端に立地しており、古入間湾の湾奥に位置しています。1995・1996年の調査では、前期前葉関山式期の住居内貝層が発見されました。

貝の種類はヤマトシジミ主体で、マガキを伴っており、多くの魚骨が出土しました。汽水域の内湾や河口に生息するクロダイ・スズキ・ウナギ・キスや、淡水の川や河口に生息するコイやウグイ、塩分濃度の高い外洋に生息するマアジやマダイも出土しています。



畑に貝が散っている



貝層断面を調査しています



住居跡に捨てられた貝



魚の骨

調査機関：大宮市遺跡調査会

かみふくおかいかいづか
ふじみ野市 上福岡貝塚

荒川低地に面した武蔵野台地の先端に立地しており、古入間湾の湾奥に位置しています。

2013・2014年の調査では、前期中葉黒浜式期の住居内貝層が発見されました。貝の種類はヤマトシジミとマガキが主体で、アサリ・ハマグリ・オオタニシ・チリメンカワニナなどを伴っています。



ここに貝塚が！



貝塚調査風景



ヤマトシジミとマガキ

調査機関：ふじみ野市教育委員会

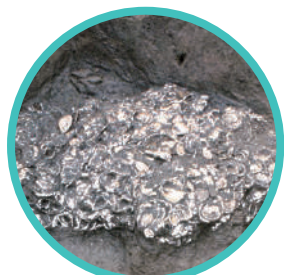
きづうちいかいづか
杉戸町 木津内貝塚

本遺跡も中川低地に面した下総台地の先端に立地しています。2001年の調査では、前期中葉黒浜式期の住居内貝層と前期後葉興津式期の土壌内貝層が発見されました。

黒浜式期の貝種はアサリ主体で、ハマグリ・シオフキと続きます。一方、興津式期の貝種はアサリ主体で、オキシジミ・マテガイと続きます。



住居内の貝層



貝層

調査機関：（公財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団

だいたくぼいかいづか
さいたま市 太田窪貝塚

荒川低地に面した大宮台地の先端に立地しており、古入間湾の湾奥に位置しています。1992年の調査では前期中葉黒浜式期の住居内貝層が発見されました。貝の種類はヤマトシジミ主体で、マガキ、ハマグリブロックを伴っています。8cm前後の特大型ハマグリがまとまって出土しており、特異な貝層といえます。太田窪貝塚の周辺は当時、ヤマトシジミなどが生息する汽水域の海が広がっていたと考えられており、奥東京湾の湾口からハマグリを持ち込んでいた可能性があります。



貝層が現れたところ



貝層

調査機関：浦和市遺跡調査会

埼玉県内で発見されている貝塚は、縄文時代前期前葉関山式期から前期中葉黒浜式期の住居内貝層が多いのが特徴です。廃絶した住居跡の中に食べ終わった貝殻や魚の骨が棄てられています。古入間湾では内湾や河口に生息するヤマトシジミが主体ですが、奥東京湾ではハマグリ・アサリといった塩分濃度の高い海に生息する貝が多くを占めています。一方、中間の大宮台地ではハイガイやマガキといった泥が多い干潟に生息する貝が多く見られます。縄文人たちは集落周辺の自然環境に適応し、豊かな食生活を営んでいたことがうかがえます。

谷奥にある縄文時代中期の集落

① 高木氷川遺跡 (さいたま市)

遺跡はさいたま市西区高木にあり、大宮台地の谷奥に立地しています。

今回が初めての調査で、縄文時代中期の竪穴住居跡4軒、土壌約40基が見つかりました。竪穴住居跡からは縄文土器をはじめ、石鏃や石皿、磨石の破片などが出土しています。

竪穴住居跡の炉跡は、土器の破片で炉を組んだ「土器囲い炉」と呼ばれるもので、中は真っ赤に焼け、よく使われていたことがわかります。

調査機関：(公財) 埼玉県埋蔵文化財調査事業団



調査風景



掘り下げた炉跡

縄文時代後期の配石遺構

② 加能里遺跡 (飯能市)

遺跡は飯能市岩沢にあり、今回の第62次調査区は遺跡の北西部にあたります。縄文時代後期前半の敷石住居跡や配石遺構などが発見されました。

今回、調査した場所は人間川から700mほど離れた段丘崖線にあたり、周辺では豊富な地下水が湧き出しています。複数見つかった配石遺構は河原石を組んだ施設で、そのうち1つは深い粘土層に達する掘り込みをもっています。地下水を利用するための施設かもしれません。

調査機関：飯能市教育委員会



敷石住居跡の炉



調査区全景



配石遺構



敷石住居跡



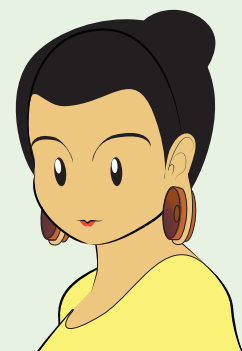
ヒスイ製の垂飾り



漆が塗られた櫛



漆が塗られた耳飾り



飾り弓



縄文時代後期の水辺の暮らし

③ 大木戸遺跡第20次 (さいたま市)

遺跡はさいたま市西区指扇にあり、大宮台地西縁に立地しています。今回は集落跡の見つかった台地から、谷へと下る低地を調査しました。

低地の遺跡からは、豊富な水によって守られた木製の道具などが出土します。今回は木で作られた容器や飾り弓、漆が塗られた櫛や耳飾りなどが出土しました。また、石棒やヒスイ製の垂飾りなどマツリに関わる遺物も発見されました。丸木舟の出土とともに、縄文人の水辺での暮らしが明らかになりました。

調査機関：(公財) 埼玉県埋蔵文化財調査事業団



縄文時代後期の環状貝塚

④ 神明貝塚 (春日部市)

遺跡は春日部市西親野井にあります。今回は保存目的の範囲内容確認調査で、調査区は遺跡の南側にあたります。縄文時代後期前半の竪穴住居跡や貝層が発見されました。

貝の種類はヤマトシジミ主体で、マガキ、ハマグリなどを伴っています。ヤマトシジミは汽水域に生息する貝で、縄文時代後期の春日部市域は淡水と海水の混じる汽水域が広がっていたことがわかります。なお、貝層の下から多くの竪穴住居跡が検出され、その中には床面が赤く被熱し、焼土で覆われている住居跡も検出されました。

調査機関：春日部市教育委員会



鹿角製装身具



焼土で覆われている住居跡



調査風景

調査区全景

低地に埋もれた環状盛土遺構

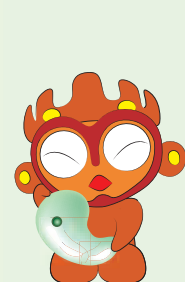
⑤ 長竹遺跡第6次 (加須市)

遺跡は加須市大越にあり、加須低地に立地しています。現在、遺跡周辺の地形は平坦ですが、発掘調査によって当時は小高い台地の上にあったことがわかりました。

環状盛土遺構を調査した結果、縄文時代後期前半から晩期中頃までの住居跡が狭い範囲に何十軒も重なって発見されました。住居跡は遺跡の一番高い場所にありますが、斜面からは土壌群や墓壇群も見つかっています。

また、土偶や石棒、耳飾りや勾玉などが出土しました。

調査機関：(公財) 埼玉県埋蔵文化財調査事業団



勾玉



耳飾り



発見された多くの遺構群

縄文時代後期～晩期の環状盛土遺構

⑥ 宮合貝塚 (川口市)

遺跡は川口市西立野にあり、大宮台地の谷奥に立地しています。調査区は遺跡の北西部にあたります。遺跡の中心に位置している二宮神社は、江戸時代までは氷川神社と呼ばれておりました。

環状盛土遺構を調査した結果、縄文時代後期中頃から晩期中頃までの住居跡が何軒も折り重なるようにして検出され、晩期の大型住居跡からは耳飾りが多数出土しました。

調査機関：川口市遺跡調査会



縄文時代晩期の大型住居跡



調査風景



注口土器



耳飾り

縄文時代終末の土偶

⑦ 稲荷台遺跡第6次 (上尾市)

遺跡は上尾市西貝塚にあり、荒川を臨む大宮台地の西端に立地しています。これまでの調査で旧石器時代の石器や、縄文時代早期の貝層を伴う竪穴住居跡と炉穴、縄文時代前期と古墳時代前期の竪穴住居跡が発見されています。

また、遺跡南側の谷から縄文時代前期～晩期の縄文土器と石器が見つかり、埼玉県内で最も新しい縄文時代終末の土偶も出土しました。

調査機関：(公財) 埼玉県埋蔵文化財調査事業団



調査区全景



縄文時代終末の土偶

弥生時代の石戈を発見！

⑧ 前中西遺跡 (熊谷市)

遺跡は熊谷市東部の上之、末広三丁目、中西三・四丁目、箱田に広がっています。これまでの調査で弥生時代から古墳時代、奈良時代、平安時代、中・近世まで続くことがわかってきました。

今回の調査では弥生時代中期後半の竪穴住居跡から石戈が出土しました。石戈は弥生時代に大陸から伝わった銅戈を模倣して作られたものです。日本独自のマツリの道具で、大変貴重な発見です。



調査機関：熊谷市教育委員会



石戈を発見！



調査区全景



石戈が出土した住居跡



石戈出土状況

平安時代の墨書土器「賀厨」

⑨ 天神峯遺跡 (日高市)

遺跡は日高市北平沢にあり、高麗川左岸の入間台地上に立地しています。奈良・平安時代の大寺廃寺に隣接しています。これまでの調査では縄文時代早期の炉穴、縄文時代中期の竪穴住居跡、平安時代の竪穴住居跡が発見されています。

また、平安時代の土器が出土しており、「賀厨」と墨で書かれていました。現在の上里町にあった賀美郡の厨家（給食センターのような施設）を指すと考えられます。

調査機関：(公財) 埼玉県埋蔵文化財調査事業団



遺跡の空中写真



平安時代の墨書土器

戦国時代の山城

⑩ 浦山城跡 (皆野町)

遺跡は皆野町金沢にあり、標高約500mの尾根上に立地しています。戦国時代の山城として知られており、今回の調査では平安時代の須恵器と炭焼き窯、戦国時代のかわけや古銭が出土しました。

これにより、平安時代には炭焼きが行われ、戦国時代には山城の平場として利用されていたことが明らかとなりました。

調査機関：(公財) 埼玉県埋蔵文化財調査事業団



かわけ

遺跡遠景



山城の平場



平成27年度

文化財収蔵施設 新収蔵資料

埼玉県文化財収蔵施設には、県内各地の発掘調査で出土した資料が約40万点収蔵されています。発掘調査で発見された資料は、報告書刊行が終了すると文化財収蔵施設に収蔵され、学校教育、生涯学習、博物館等、様々な場での活用が図られています。

今回は、最新の収蔵資料のほか、すでに収蔵されている資料の中からも御紹介します。

みなみだい

南台遺跡 (春日部市)

南台遺跡からは、縄文時代前期中頃（約6000年前）の住居跡が発見されました。この住居跡からは埋まりかけの竪穴住居に捨てられた貝殻とともに、現存高約25cmの大型の注口土器が出土しました。口の部分が大きく波打ち、波頂部のすぐ下に片口の注ぎ口が付いています。このような形の片口注口土器は、とてもめずらしいものです。注ぎ口の付いている波頂部がやや高く、波頂部を起点として鋸歯文様が描かれていることから、正面を意識して作られているようです。

事業団報告書第414集『南台遺跡』



大型注口土器



ながたけ

長竹遺跡 (加須市)

長竹遺跡では、縄文時代後期から晩期にかけて形成された環状盛土遺構の周辺に、もう一つ晩期の集落が営まれていたことが分かりました。写真は環状盛土遺構の周辺から出土した長さ約7cmの犬形土製品です。全国を見渡しても出土例は少なく、貴重なものです。体をわずかに右に曲げて首をかしげた姿は愛らしく、縄文時代の人びとの豊かな造形力を感じることができます。

事業団報告書第413集『長竹遺跡Ⅰ』



犬形土製品



犬形土製品出土状況



せいざえもん

清左衛門遺跡 (白岡市)

清左衛門遺跡では、縄文時代前期前半から晩期初頭の集落が台地の縁辺で見つかりました。一方、台地下の谷際では、水場として利用された木組みの遺構（写真左上）も確認されています。

この水場遺構は後期の中頃に盛んに使われています。土器とともにクルミやトチの実が出土したことから、水さらし・アク抜きなどを行った加工場であったことがうかがえます。調理の道具なのでしょうか。舟の形をした木製の容器（写真右）も最下層から出土しました。埋納されたように出土したことから、祭祀的な意味合いも考えられます。径18cmの丸太をくり抜いて作られており、その形状から丸木舟が連想されます。長さは49cmで、2箇所に脚を削り出しています。

水場があった頃の大型深鉢（写真左下）で、高さは約64cmです。トチの実の水さらし・アク抜きに使われていたと考えられています。この土器の文様は、大宮台地でも東側に多く見られるもので、細かい地域差を検討する道筋が見えてきました。

事業団報告書第416集『清左衛門遺跡』



水場として利用された木組遺構



舟形木製品



大型深鉢



まいぶん探訪

鴻巣市文化センター 歴史民俗資料コーナー



資料コーナーはクレアこうのす内にあります

平成 12 年に開館した複合的文化施設です。館内の歴史民俗資料コーナーには、市内の遺跡からの出土品が展示されています。出土品は埴輪を中心として、見学しやすいように整然と並べられています。

特に生出塚埴輪窯跡から出土した埴輪は 2005 年に国の重要文化財に指定されています。指定された埴輪のなかでも人物埴輪と家形埴輪は彩色の残りも良く、当時の技術の高さを物語る優品です。

40 回以上に及ぶ調査の結果、生出塚埴輪窯跡は東日本では最大級、日本国内でも屈指の埴輪工房であることがわかりました。生出塚で作られた埴輪は、埼玉県行田市の埼玉古墳群をはじめ、東京都、神奈川県、千葉県など南関東各地の古墳に運ばれていたことがわかってきました。

展示品



古墳時代の貴人埴輪



古墳時代の寄棟造りの家



ガラスケースの展示風景



収蔵展示の見学風景

鴻巣市文化センター歴史民俗資料コーナーのご案内

- 住 所 〒365-0032 埼玉県鴻巣市中央 29-1(クレアこうのす内)
- 開館時間 午前9時から午後10時まで
- 休 館 日 毎月1回、年末年始
- 入 館 料 無料
- 交通案内 JR高崎線鴻巣駅から徒歩約20分
朝日バス、東部バス、川越観光バスの免許センター行きで終点下車
- 問い合わせ 鴻巣市教育委員会 生涯学習課 文化財担当
- 電 話 048-544-1215

